



みんなと手を取り合いながら歩いていく。コスメ のまち、唐津市に。＜前編＞

「[みんなとチョイス](#)」のnoteでは、ふるさと納税を通じて、地域をもっと元気にするために頑張るヒトの声を、ふるさとチョイススタッフとの対話を通して、お伝えします。

4月22日(土)、佐賀県唐津市と、「みんなとチョイス」のファンミーティングを開催しました。

今回のファンミーティングは、佐賀県最北端にある、『加唐島(かからしま)』でつくられる椿油の魅力に触れ、その可能性について、みんなと考えることがテーマ。



みんなと
チョイス

FAN MEETING

唐津市の椿油をつかった
コスメづくりを体験しよう

2023/4/22 [SAT] 13:30-16:00

そして、ファンミーティング終了後、唐津市のふるさと納税担当者と、加唐島の椿油を使ったコスメをプロデュースする事業者、そして、ふるさとチョイススタッフが、当日の様子を振り返りながら、これからのまちの未来について話しました。

その様子を、＜前編＞＜後編＞の2回に分けて、お届け！

このnoteは、前編。唐津市が、『唐津コスメティック構想』を掲げて、これまで取り組んできた活動や、それに対する想いを中心に紹介していきたいと思います。



藤井 謙策さん

佐賀県唐津市役所 経済部 からつブランド・ふるさと寄附推進課

佐賀県唐津市出身。2000年4月に唐津市役所に入職。2022年4月にふるさと納税担当者となる。現在は、ふるさと納税業務全般を行う。



松尾 聡子さん

株式会社バース・プランニング代表取締役

佐賀県唐津市出身。総務省 地域力創造アドバイザー。広告・デザインを手掛ける傍ら、地域の活力となる看板商品を開発するプロジェクト「地域まるごとデザイン」を2016年にスタート。加唐島の椿油を使用した化粧品「TBK cosme」を生み出し全国のコスメアワードなど受賞歴多数。



水谷 智貴

ふるさとチョイス事業本部/地域ソリューション統括部

埼玉県さいたま市出身。2020年にトラストバンクに入社。主に、ふるさと納税業務に携わる自治体のサポート業務などを担当。

佐賀県唐津市の取り組み

唐津市全体で盛り上げる、『唐津コスメティック構想』

水谷: 今日のファンミーティング、お疲れさまでした！松尾さんが講師を勤めた椿油を使ったコスメづくり体験、すごく楽しかったです。

松尾: お疲れさまでした～！私もすごく楽しかった！！

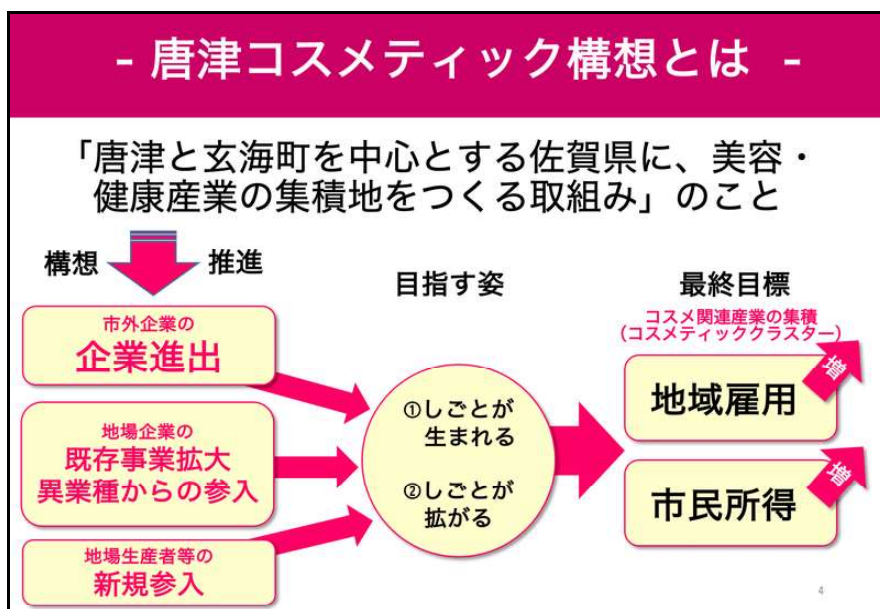
藤井: 正直、開催が決まってから1ヶ月半で、こんなに濃密なファンミーティングが開催できると思っていなかったの、水谷さんと松尾さんのご協力に、感謝しています。



水谷:こちらこそ、ありがとうございました。今年の2月末に、唐津市役所から、ふるさと納税担当の藤井さんと、コスメティック産業系の担当者が揃って、私たちのオフィスに来ていただいて。その時に、唐津市で推進されている『唐津コスメティック構想』の取り組みについて、お話を聞かせていただいたのが、今日の開催に至ったきっかけです。

『唐津コスメティック構想』とは

唐津と玄海町を中心とする佐賀県に、美容・健康産業の集積地をつくる取組み。その実現のため、佐賀県・唐津市・玄海町・民間企業・大学などが連携し、設立された「ジャパン・コスメティックセンター(JCC)」が推進母体となり、産学官連携のもと、地域資源をいかした経済活動の活性化と、雇用の創出を目指した取り組みを進めています。(唐津市役所HPより引用)



藤井:私が所属する部署の中に、『コスメティック産業係』というチームがあり、この『唐津コスメティック構想』をメインで推進してくれています。そして私も、ふるさと納税担当として、この“コスメ産業”を、唐津市全体で盛り上げるために、連携したいと思ってました。

水谷:2月末に、コスメティック産業係の担当者とお越しいただいた際に、「一緒に盛り上げたい！」という熱意がすごく伝わりました。

藤井:あの時、伺って良かったです。

水谷:僕はこれまで、様々な自治体のふるさと納税担当者と接してきましたが、「他の部署と連携してPRしたい気持ちがあるけど、なかなか協力体制を組むのが難しい」と悩んでいる担当者の姿を、何度か目にしたことがあります。だから、唐津市は、横の連携がしっかりできていて、すごいと感じました。



コスメティック産業係の担当者と、藤井さん

藤井:市役所内だと、どうしてもそういう連携が難しいんですよね。でも、私たち『からつブランド・ふるさと寄附推進課』と『コスメティック産業係』は隣の席でもあるので、相談がしやすい関係なんです。

水谷: 物理的な距離の近さは、大事ですね！

藤井: 唐津市のふるさと納税というと、“佐賀牛のハンバーグ”、“呼子のいか活造り”などの、お礼の品が人気。ですが、食品以外にも、唐津市の魅力を感じられるお礼の品を探していました。

松尾: そこで、「コスメがある！」と思ったわけですね。



藤井: そう。唐津市全体で取り組んでいることだったし、一緒に情報発信をしよう！という話になって。あと、コスメだったら常温で展示ができるので、唐津市をPRするイベントへの出展がしやすいだけでなく、その中で「唐津コスメティック構想」の情報発信もできるのでは？と思ったんです。

松尾: 私も、ふるさと納税をされる方にとって、「唐津市＝コスメ」というイメージは、まだ無いと感じていて。だから、このファンミーティングのお話を聞いた時、「チャンスだ！」と思って、コスメ作りワークショップをすることを、すぐ引き受けました。

藤井: こういうお声掛けをすると、松尾さんはいつも協力して下さるんです。本当に感謝しています。



『唐津コスメティック構想』で描く未来

水谷:「唐津市＝コスメ」という認知を進めていくうえで、現在はどのような取り組みを考えていますか？

藤井:そもそもですが、“コスメ”以前に、唐津市自体の認知度がまだまだ足りないと思っています。

松尾:最近、“長崎県唐津市”と書かれていたことも、あったんでしょう？

藤井:はい。“唐津焼”とか、“唐津くんち”は、認知度が上がっているのかなと感じますが、やっぱり、唐津市全体の魅力発信が必要だと思っています。その上で、『唐津コスメティック構想』のような取り組みを伝えていく、という順番なのかなと。



松尾:そうですね。その結果、「唐津市＝コスメ」というイメージがついて、ふるさと納税にも繋がるといいですね。

藤井:コスメの魅力を伝える時にも、「浅く広く」ではなくて、「深く狭く」浸透させるのがいいと思っています。だから、今日のようなファンミーティングの規模感で、私たちの取り組みや、唐津市のコスメに触れていただく時間は、理想的でした。

松尾:少人数でも、丁寧に伝えることで、その方々の記憶に深く残るはず。そして、家族や友人に良さを伝えていただいて、唐津市のイメージや魅力が、徐々に広がっていくといいですね。



唐津市の豊かさまで見据える、『地域まるごとデザイン』

水谷: 今日のファンミーティングの時間の中で、松尾さんの、唐津市への愛を感じる瞬間がたくさんありました。

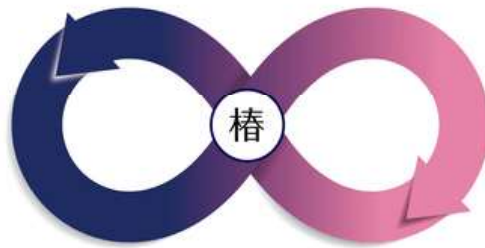
松尾: ほんとですか！？うれしいです。私は、佐賀県唐津市呼子町の出身。子どもの頃は、地元
に目を向けていなかったのに、デザインの仕事をすることで、唐津にある地域素材の魅力に惹か
れて、いまこうして唐津市で仕事をしているのが、不思議で仕方ないです。



水谷: 松尾さんは、デザイン会社を営みながら、唐津市加唐島の椿油を使った化粧品をプロ
デュースされていますよね。椿油に出会ったきっかけを、教えてください。

松尾: 私は、これまでもデザイナーとして、ポスターやグッズを制作していました。たくさんの経験
の中で、その先にある、その人たちの豊かさまで考えることがあって。その時に、『地域の人
がどう在るべきなのかまで、デザインする』、という考えに行き着きました。そして、『地域
まるごとデザイン』というコンセプトが、自分の中に生まれたんです。

藤井: 『地域まるごとデザイン』。いい考え方ですね。



プロジェクト名「地域まるごとデザイン」

デザイナーとして地域に何が出来るかという課題に取り組み、少子高齢化が進む故郷の為「地域の活力となる、島の看板商品を作りたい!」と思い立ち、島の地域資源である高品質の椿油をここでしか作れない価値あるものとして残していくために地域を巻き込んだ、コスメ開発が2016年に始まりました。

松尾: その考えが漠然とあった頃に、ものづくりをするための素材を探していました。すると、ある日、父から「加唐島の椿油はどげんや(どう)?」と言われて。とりあえず船に乗って、加唐島まで行きました。

水谷: お父さまの言葉が、椿油との出会いに。

松尾: 加唐島に着いて、椿油を作っていた、島のじいちゃんとはあちゃんに話を聞きました。そして、「この作業を何のためにやってるか分からない」、「虚しい」など、マイナスな言葉が返ってきて。

水谷: 良いものを作っても、その意義を感じられずに、とりあえず伝統を継いでるような感じだったんですね。



松尾:島のばあちゃんの「虚しい」という言葉が、本当に悲しすぎて…。その時に、「ものづくりの素材は、絶対に、加唐島の椿油にしよう！」と決めたんです。

水谷:では、「椿油の成分の魅力に惹かれてコスメ作りをしよう」と、最初から決めていた訳ではなくて、その状況を変えるために、椿油の価値を高める取り組みが始まったと。

松尾:はい。こんなに頑張っている、椿油の魅力に気づいていない人に、気づいてもらいたい。そして、自分の取り組みを通じて、島の人や地域の人が、豊かになるなら本当に嬉しい。まさに自分が求めていた、『地域まるごとデザイン』ができると、確信しました。



加唐島の椿油から生まれる、循環社会

藤井: 松尾さんは、加唐島の椿油を使ったコスメ『TBK cosme』のプロデュースや、ドレッシングや食用オイルなど、食べる椿油なども展開しています。

水谷: 椿油がもつ可能性を、どんどん広げていらっしゃるんですね！



松尾: プロジェクトを始めてから、徐々にですが、加唐島の椿油の価値が上がりました。その結果、「虚しい」なんて口にしていた島の人たちも、やる気を出してくれるようになりました。

水谷: それは嬉しい！きっと、島の人たちも喜んでますよね。

松尾: きっと喜んでくれていると思います。敬老の日には、必ず島に行って、私がプロデュースした商品を、島民全員に配るようにしています。「あなたたちが頑張って作った椿油が、こうやって商品になっているんだよ」って。

藤井: そうやって形になったのを見ると、嬉しいですね。



松尾:島のばあちゃんが、泣きながら「ありがとう」って言ってくれて。その姿を見ると、やって良かったなと思います。

水谷:泣ける....

松尾:でもこれは、私だけの力じゃない。唐津市のコスメティック産業係、佐賀県のコスメティック構想推進室、ジャパン・コスメティックセンター(JCC)の皆さんと、協力してできたことです。

水谷:『唐津コスメティック構想』を推進する同士のつながり、本当に強いですね！

松尾:はい。これに留まらず、もっとたくさんのことやって、島の人たちのやる気を高めていきたいです。そして、椿油の可能性を世の中に発信しながら、本物の椿油を求める人が増える。結果的に、新しい産業も生まれたりして、島にお金が入るような未来を目指したい。

水谷:『循環型の社会』ですね。まさに、地域の人その先の未来まで見据えてデザインする、松尾さんらしい考え方。



水谷:このプロジェクトを通して、松尾さん自身の変化はありましたか？

松尾:うーん。どんなことにもめげない強さを手に入れましたね(笑)

藤井:どんどん、パワーアップしていますよね。

水谷:確かに、松尾さんと接していると、すごくエネルギーを感じます！今日のファンミーティングの参加者の中にも、松尾さんの”強さ”に共感されている方もいましたよ。

藤井:松尾さんは、賞も多数受賞されていたり、いわば唐津市の女性起業家の中でもリーダー的な存在です。松尾さんに続くような方が、どんどん出てくれば、唐津市も、もっと元気になっていくと思っています。

松尾:嬉しいです。でも、私だけの力じゃ、全然足りないの、一緒に盛り上げていきたいですね。

水谷:『唐津コスメティック構想』を推進する上でも、一緒にまちの取り組みに協力してくれる、松尾さんのような存在は不可欠ですね。唐津市役所内での連携、そして事業者との共創。最高のパートナーシップを感じた1日でした！



”みんなと共創しながら、『唐津コスメティック構想』を推進する”

市役所内における、ふるさと納税担当と、コスメ産業系の、チームの垣根を超えた、情報発信。そして、まちの取り組みに協力的な事業者の存在。

みんなと手を取り合いながら、まち全体で、「唐津市＝コスメ」という認知を広げ、まちの未来に繋げていく、強い意志を感じました。

<後編>では、東京都内で開催した、ファンミーティング当日の内容を振り返ります。また、これから唐津市が目指していきたい“まちの未来”について話す様子もお届けします。

※<後編>を公開しました(2023.05.29)

https://note.com/minna_to_choice/n/na3e252da5082

佐賀県唐津市をふるさと納税で応援

<https://www.furusato-tax.jp/city/info/41202>

「みんなとチョイス」とは？

私たちは、ふるさと納税ポータルサイトを運営している「ふるさとチョイス」です。私たちは、寄付者の想いを地域に届け、地域の変化を寄付者に発信しています。

その活動の一つである「みんなとチョイス」では、地域で活動するヒトの想いに触れ、地域の魅力や課題についてみんなと一緒に考えるファンミーティングなどを行いながら、持続可能な地域の未来をいっしょに考える場をつくっています。そして、ふるさと納税を通じて地域をもっと元気にするために頑張るヒトの声を、もっとたくさんの方と共有したいと思い、このnoteで、ふるさとチョイススタッフとの対話を通してお伝えしています。

<https://www.furusato-tax.jp/customer/minnatochoice>

